

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	86.2	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	93.1	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	96.6	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

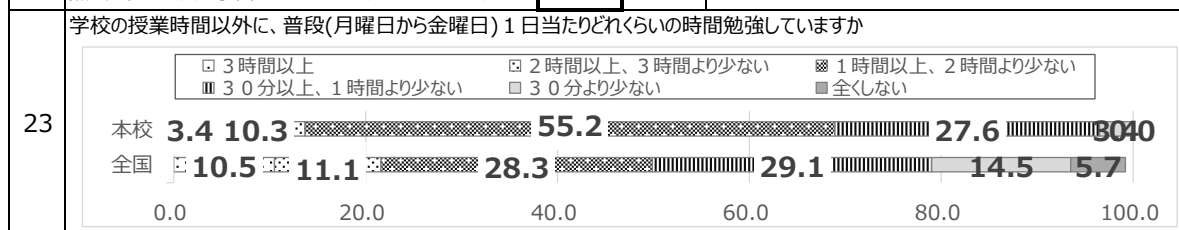
◎「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」児童の割合が、全国平均よりも高くなっています。

◎「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」児童が全国平均よりも多くなっています。

●家庭学習については、1時間未満の児童が、約30%おり、全くしないと答えた児童もいました。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	96.5	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	89.6	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	96.5	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	89.7	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	86.2	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	96.5	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎「自分には、よいところがあると思う」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均よりも高くなっています。

◎「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均よりも高くなっています。

●「学校に行くのは楽しいと思う」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合は、ほかの項目に比べやや低くなっています。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.6	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	86.2	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

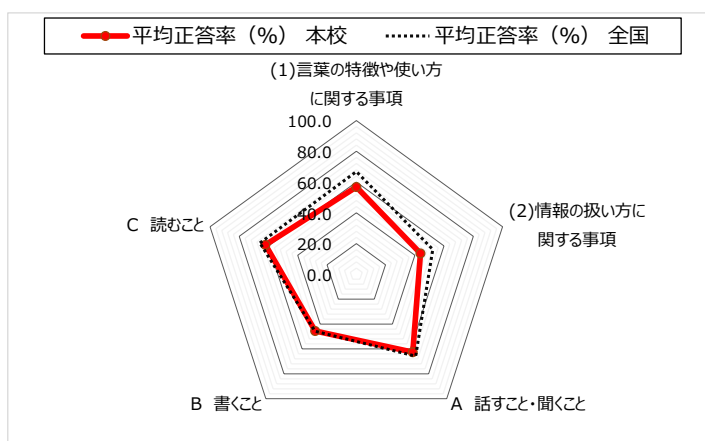
- 「学校に行くのは楽しいと思う」の項目については、子どもたちが達成感を得られるような活動を仕組み、その振り返りをしっかりと行い、教師がそれを価値付けることで「学校が楽しい」と思えるよう取り組んでいきます。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の項目については、地域で行われている「美化美化大作戦」などの活動を紹介したり、郷土学習などで金立について学んだりしながら、向上することを目指します。

【ご家庭では】

- 雄飛学園（金立小・久保泉小・金泉中）の取組である、「まなざしカード」の取組を充実してほしいと思います。お子さんへの承認・励ましがあることで、さらに向上するのではと考えます。
- 「金立スタンダード」や「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	56.8	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	43.9	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	62.6	65.8
	B 書くこと	45.5	45.7
	C 読むこと	62.1	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	56.9	61.9
短答式	53.0	62.6
記述式	50.0	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる」については、全国平均よりも高くなっています。「話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる」ことについては、全国平均を下回ったものの、県平均よりも高くなっています。

●学習指導要領の内容別平均正答率は、県平均を上回っているものもありましたが、全国平均と比較すると、すべて全国平均を下回っています。特に、「書くこと」について、課題が残りました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 一	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を 考えることができるかどうかをみる	78.8	73.9
3 一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	75.8	76.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	33.3	45.2
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	27.3	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

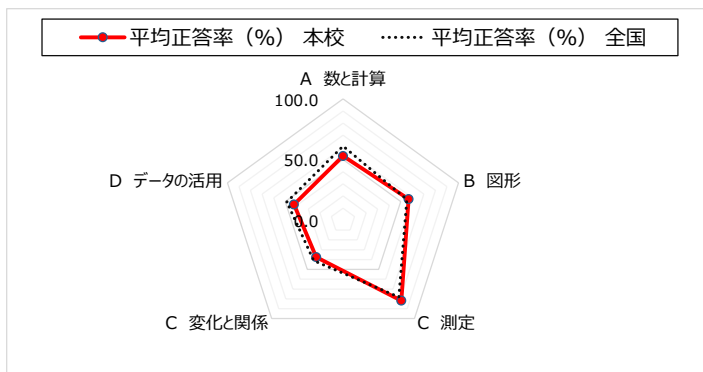
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしなが書く機会を増やしたり、それを伝えあったりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 漢字の書き取りを大切にしていましよう。繰り返し練習することで、漢字を覚えるだけでなく、熟語などの言葉の意味を理解することができ、文章の要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書を大切にしていましよう。いろんな本を読み、いろんな表現や用語に触れることで、「読む」を楽しめるようになります。図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書週間をつける上でおすすめです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	53.0	61.1
B 図形	56.8	55.3
C 測定	81.8	78.1
C 変化と関係	37.4	41.1
D データの活用	42.4	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	49.1	56.0
短答式	58.0	59.7
記述式	40.4	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「図形」と「測定」の領域で、正答率が全国平均よりも高くなっています。「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」問題で、正答率が97%となり、体積を求める公式がしっかりと身に付いていると捉えています。

●「数と計算」、「変化と関係」、「データの活用」の領域で、正答率が全国平均よりも低くなっています。「データの活用」の領域で低かったのは、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」という短答式の問題でした。複数の情報から必要な情報を取り出す学習に取り組むことが重要であると捉えています。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	97.0	72.7
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	93.9	94.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 (4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	24.2	34.2
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	3.0	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を往還させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、図や式、言葉などを使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉を掛けてください。
- 算数の学習に取り組むときには、「これから習うことを生活の中で使えないかな。」と思いながら取り組むようにしていくことが有効です。「おかし分けでわり算」、「料理で重さ」、「お風呂で水のかさ」、「折り紙で分数」、「家の中で図形探し」など、少し意識してみると、身の回りには算数を生かせることがたくさんあります。